２０２７

エコ意識を高める公共空間

Public Space That Promotes Ecological Consciousness

ＡＤ３６　竹中　瑞樹
指導教員　比留間　真

1. 研究目的

環境問題の深刻化に比例して人々のエコへの関心が高まっている。そこで様々な年齢の人に利用される公共の場で環境について考えてもらえる空間作りができないかを考えた。

2. 調査と分析

都心部で環境問題について調べた結果、品川駅周辺がヒートアイランドも含む環境問題への対策として環境モデル都市という取組みが行われていることがわかった。また、主要交通機関である電鉄会社によって行われている環境への取り組まれている事例を調べた。その中で、東京都交通局新宿線の東大島駅は「駅エコプロジェクト」として風力発電機、太陽光パネルを設置し、発電された電気はバッテリーに溜められ、風車のすぐ下にある緑化スペースへ供給する雨水の電源として使われることになっている。また雨水タンクを設置し雨と風、太陽という自然の恵みのみで緑が育つ仕組みになっている。そのほかにこれらの取り組みを利用者に紹介するPRコーナーを設置している。だが、発電から雨水を緑に供給するまでの流れが見えず利用者には解りづらいところがあると感じた。

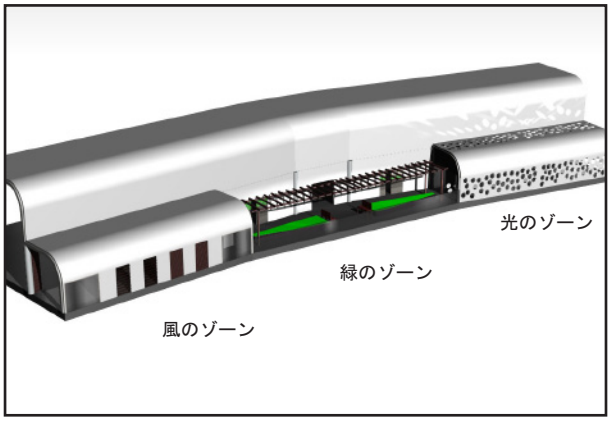
3. コンセプトの立案

「自然を感じて、興味を高めてもらう駅空間」
・自然を取り入れてそれを感じてもらい、そこから自然への興味を高めてもらう空間作りを行う。
・駅周辺が環境モデル都市として様々な取組みが行われていることから環境への意識が高いのではないかと考え、提案場所は品川駅を選んだ。

4. デザイン展開

品川駅で一番利用者が多い、東西をつなぐ自由通路を使い自然への興味を高めてもらうために光風、緑のテーマ別に３つのゾーンを設定した。
・光のゾーン：太陽の光を普段意識することは少ないが、光の強さが変わる朝、夕方の時間帯や夏冬などの季節によっては意識する時もある。その中で変化する太陽光の入射角に合わせた窓を不規則に配置して、入り込む光で自然の中の木漏れ日のような効果を演出して、自然の光を強く感じられるようにした。
・風のゾーン：中央改札口に近い通路の一部を区切りベンチを設けて待合場所として利用してもらう。そこの窓にブラインドを設け、風を快適に感じる季節には開けて取り入れて、逆に風を入れることによって暑い、寒いと感じる季節は閉めて外の風を遮るようにして快適な状態にする。
・緑のゾーン：パーゴラを設けて、夏場には蔓などの植物でできた日陰で日光が遮られるようにする。冬は植物の葉が落ちて日光が直接当たり暖かく感じるようになる。また通路の中央に芝生のスペースを設けて、座って休めるスペースとする。

5. 完成図



6. 結論

検証を行った結果、提案する内容については一定の理解を得られた。デザイン案については、
・光のゾーンは形が面白く季節感を感じられるので自然について意識すると思う
　という意見がある一方で、
・インパクトが弱い
・納得はするがエコだとまでは言えない。
という意見も頂いた。
利用する人の意識を高めさせるためにもっと楽しめる仕掛けやインパクトのあるデザインが必要だと感じた。

7. 参考文献

「風力発電に雨水タンク！「駅エコ」実験をした東大島駅に行ってきました。」
http://greenz.jp/2009/04/26/ekieco/